

香川大学におけるDX推進活動モニタリングシステムの内製開発

岩河 朱音

香川大学 情報化推進統合拠点 DX推進研究センター

1. はじめに

- 香川大学では、**学外・地域のDX推進**を目的として、内製システムをオープンソースとして公開するソリューションカタログの運用や、内製開発の実践スキルを高める内製開発／データ分析ハンズオン等の**DX推進活動**を実施している
- ソリューションカタログで公開したソリューションのダウンロード数は、**学外・地域での利用状況や社会実装の成果を測るKPI**として設定されている
- これらのDX推進活動の状況を一体的に把握・評価するとともに、**提供サービスの課題を分析して次の活動設計につなげる改善基盤**を構築することを目的として、「**DX推進活動モニタリングシステム**」を内製開発した

2. 「DX推進活動モニタリングシステム」の開発

- ソリューションごとのダウンロード数を収集・可視化し、**利用状況を把握**できる
- ソリューションカタログのユニークユーザー数およびページビュー数を可視化し、**サイト全体の閲覧状況を把握**できる
- ハンズオンの実施日、実施内容、開催場所、参加者数を可視化し、**普及活動の実施状況を把握**できる
- ダウンロード数、ユニークユーザー数、ページビュー数とハンズオン実施状況を同一ダッシュボード上に統合し、**DX推進活動の状況を一元的に把握**できる
- Power BIを用いてダッシュボード化し、DX推進活動の状況が**毎日自動で更新**される

以下の手続きが自動的に実行され、モニタリングが実現される（図1）

- Google Apps Scriptを每晚定期実行し、Google Analyticsから前日のダウンロード数、ユニークユーザー数、ページビュー数を取得する
- 取得したデータをGoogleスプレッドシートへ保存し、ダウンロード状況およびサイト閲覧状況を蓄積する
- ハンズオンの実施日、実施内容、開催場所、参加者数等の情報はSharePointリストで管理し、実施内容に変更があった場合は随時リストを更新する
- Power BIはGoogleスプレッドシートおよびSharePointリストをデータソースとして参照し、毎朝自動更新を実施する
- 更新されたデータを基に、ダウンロード数、ユニークユーザー数、ページビュー数およびハンズオン実施状況を統合的に可視化する

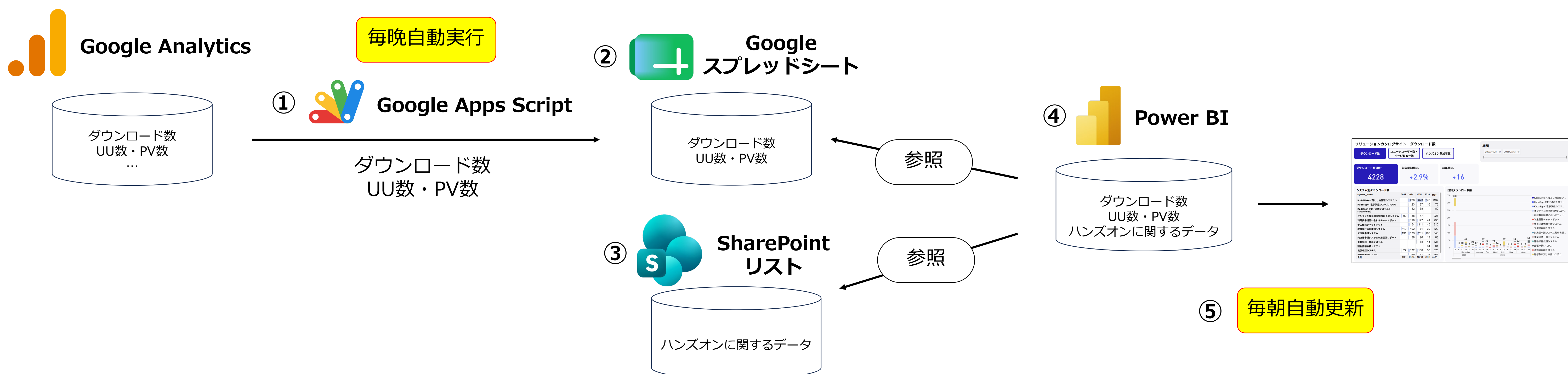


図1 DX推進活動モニタリングシステムのデータ取得・可視化手順

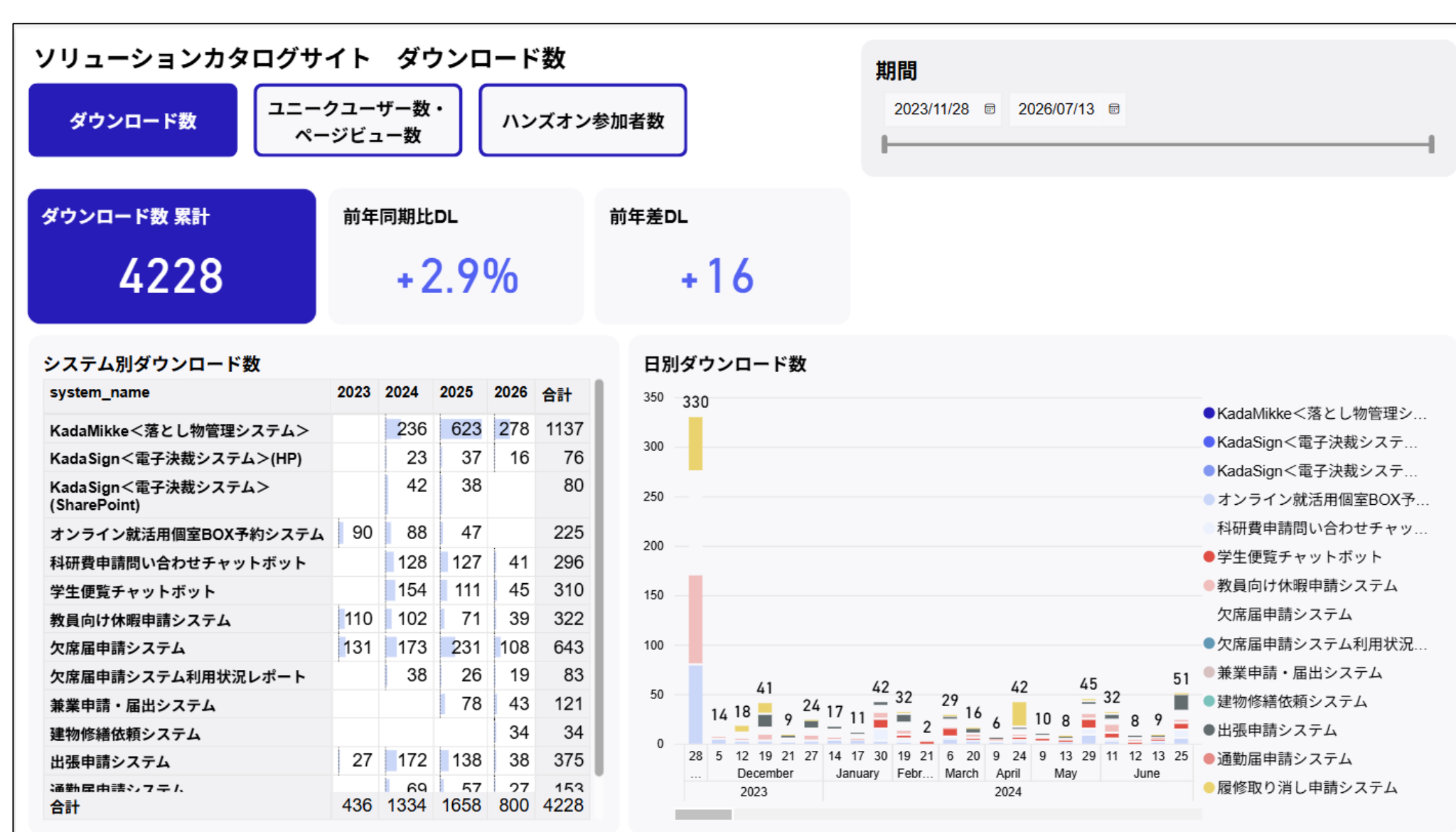


図2 ソリューションカタログダウンロード状況

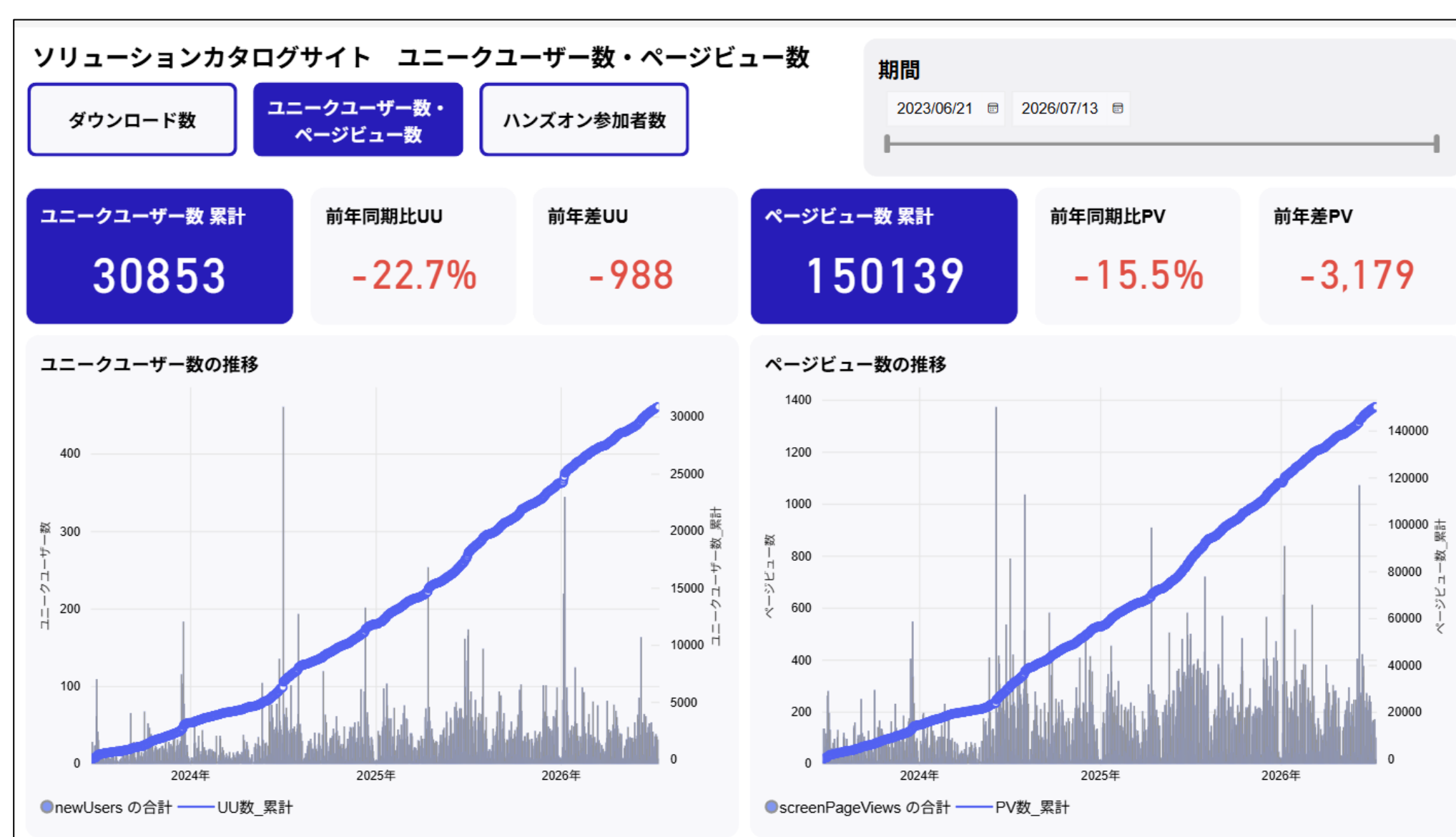


図3 ソリューションカタログアクセス状況



図4 ハンズオン実施回数・参加者数

3. まとめ

- 本発表では、ソリューションカタログやハンズオンなどのDX推進活動の状況を一元的に把握できる「DX推進活動モニタリングシステム」の内製開発について述べた
- 本システムは、ダウンロード数、ユニークユーザー数、ページビュー数、ハンズオン実施状況を一体的に可視化し、DX推進活動の状況を把握・分析できる
- 今後は、可視化した状況から提供サービスの課題を分析し、次の活動設計につなげる改善基盤として発展させる